



（株）加藤総建（長崎市、加藤一社長）が開発した「3D管理による特殊法面掘削工法（特のり3D工法）」が、国土交通省の新技术情報提供システム（NETIS）に登録された。登録番号はQS-190004-A。

この技術は、同じく同社が開発した『特殊法面掘削機』に、i-Constructionで注目を集める「3次元マシンガイダンス（3DMG）」を組み合わせたもの。特殊法面掘削機は、建機本体に搭載した油圧ウィンチからのワイヤロープを斜面上のアンカ

## （株）加藤総建

# 特のり3D工法がNETIS登録

## 法面掘削を安全・迅速・高度に実現

（立木など）に接続することで、最大傾斜80度まで安全に施工できるバックホウ。既に県内外で多くの施工実績を有している。

このマシンに、360度プリズムや2軸勾配センサーのほか、ブームやアーム、バケットへの各種センサーを設置。運転席にもモニターやリモートディスプレイを配置する。そして、設計図に基づき作成した「施工斜面の3次元設計データ」を登録すれば、自動追尾トータルステーションから運転席のモニターに、バケットの刃先と設計位置までの

差分をリアルタイムで表示。オペレーターはこのガイダンスに従って掘削すればよい。

このため複雑な設計形状の法面でも、丁張なしで高度な掘削管理を実現。丁張の補助作業員が不要なため安全性も向上。現場条件にもよるが、施工は人力よりも相当早く、通常の特種法面掘削機と比べても約2倍の速さだという。これらのメリットが評価され、既に県内で4件の施工実績がある。

問い合わせは、電話095（879）1030。